

第2回 次世代運行管理・支援システムについての検討会 — 議事要旨 —

1. 日時・場所

平成27年3月23日（月） 16:00～18:00

中央合同庁舎第2号館 低層棟共用会議室5（1階）

2. 出席者

【委員】

永井正夫、酒井一博、安宅豊、村松義夫、野辺継男、川端由美、永嶋功、山下博、
荻野隆義（敬称略）

【行政】

安全政策課、技術政策課、環境政策課、自動車情報課、審査・リコール課、旅客課、
貨物課

3. 議題

- (1) 第一回議事内容の確認
- (2) 取組事例の紹介
- (3) 運送事業者の要望
- (4) 機器メーカーアンケート結果の概要
- (5) 今後の検討事項及び検討方法
- (6) 海外事例について
- (7) 次年度スケジュール

4. 議事結果(委員からの主なご意見)

【野辺委員】

- 事業所に到着（帰庫／入庫）して、wifiでアップする方法は通信コストの低廉化に繋がる方法のひとつとして検討する必要があるのではないか。
- ヒヤリハットを検知した場合に、事業所（運行管理者）からドライバーへの問合せについては、ドライバーのヒューマンファクター・心理的な部分の精神的負荷がある。
- データの共通化において各社各様であると、個々にカスタマイズしなければならない。分析ソフトの標準化といったことも含めて、そもそもデータを取る、データを出す側のデータ形式を標準化することが必要ではないか。
- 今後、通信方法等の議論を行う際、現状のデータ送信容量などについても実態を把

握しておく必要があるのではないか。

- KML (XML) 技術において、(デジタコや GPS の) データを変換することで、評価可能な技術もある。今後この分野においても参考となる。
- OBD II よりも、寧ろ、CAN に繋げてデータを取ることの方が有用ではないか。
- G センサーによる運動変化量についても、安全安心を分析する上では必要ではないか。

【永嶋委員】

- 現状、かなり廉価なデジタコもあると聞いているが、逆に管理ソフトの方が高価なものとなっている実態を聞いている。一方で、無償でソフトを提供している事業者もあるが、所謂、高機能型ではない。
- 次世代となった場合、どこまで要求するのかといったことについても検討していかなければならない。
- 運送事業では、事業形態が多様にある。長距離型であったり、所謂、地場ルート配送などを考えると、事業形態によるランク区分の考え方もある。

【永井委員】

- ターゲットとする価格帯だとか、機能についてもミニマムリクエストでいいのか、品質の高い運行管理をしっかりとやるためのものなのか、幾つかのランクを考えた方がよいのではないか。
- データ送信容量については、運用していくなかでは非常に重要な要素である。

【川端委員】

- FMS (Fleet Management System) について、データの仕様であったり、書き込み頻度であったり、もっと詳細を調べた方がよい。
- サードパーティーがどういった利用のされ方をしているかによって、コストダウンのヒントに繋がる可能性があるのではないか。

【酒井委員】

- FMS (Fleet Management System) について、運転者情報等の項目が、どういった内容で、必要性があるのかなど、調べていただきたい。

【安宅委員】

- FMS (Fleet Management System) について、わたしの知る限りでは、国内の取組については今のところ無いと聞いている。

【村松委員】

- データ取得について、主目的があって副次的なものがある、それらが絶えずフィードバックされ、共有していった方がよいのではないか。

【萩野委員】

- ビッグデータには関心があって、業界でも取り組む方向でいる。

【山下委員】

- 運行記録計の目的の明確化において、当初の目的からブレることなく、共有することが必要である。

【環境政策課】

- 環境政策の部門においても、来年度からキックオフを予定しており、こういった議論を個々で実施するのではなく、連携していく必要がある。

以 上